

第3学年 国語科学習指導案

日 時 平成25年11月13日(水) 5校時

場 所 3年教室

児 童 男3名 女2名 計5名

指導者 竹花史華

1 単元名 民話のおもしろさを民話びょうぶでしようかいしよう

学習材 「木かげにごろり」東京書籍 3年下

世界の民話 数冊

2 単元を貫く言語活動とその特徴

単元を貫く言語活動として、「民話屏風で紹介する」ことを位置づける。

ここに取り上げる「民話屏風」は、①内容の大体をとらえた「あらすじ」、②おもしろいところ(人物(登場人物の性格)・場面(話の変化)・表現(民話独特の表現))を見つけてまとめる「おもしろさ」、③「おもしろい理由」で構成する。

この民話屏風を完成させ、学級の友だちに民話を紹介し、さらに、その後には図書室へ置いて他学年の友だちにも民話を紹介していくという相手意識を持たせていく。屏風という形にまとめることによって、一度見ただけで全体を見ることができたり、1枚ごとに書いている要件が違うため、1枚1枚をクローズアップして見たりすることもできる。また、立てて置いておくことができるため、紹介するには見やすいものであると考える。

上記のような「民話屏風」にまとめることで、おもしろさを見つけながら読み味わうことができ、さらにそのおもしろさを友だちに分かりやすく伝え、新たな読書活動へつなげることができると思う。

このことにより「目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと」(読むことカ)を実現できるようにしている。

3 単元について

(1) 児童について

本学級の児童は、2年生の12月学習材では、「楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読む力」の育成をねらい、「読書カードで紹介しよう」という言語活動を行っている。想像を広げながら、展開のおもしろさや昔話の表現について着目して多くの日本の昔話を読み、好きなところを紹介してきた。

3年生の6月学習材では、「目的や必要に応じて、文章を要約する力」の育成をねらい、「しょうかいカードを作ろう」という言語活動を行っている。この紹介カードには、「あらすじ」「人物」「しかけ」の要件を入れた。しかし、場面設定をとらえる力が弱く、あらすじをまとめるのに苦労をしている児童もいる。このことから、時や場所・人物・出来事をしっかりととらえさせて、「はじめに」「次に」「それから」「さいごに」を意識させながらあらすじをまとめさせていきたい。

民話というジャンルの読書は本単元が初めてである。そのため、あらすじや人物像をしっかりととらえ、民話独特のおもしろさ(話の展開や表現の工夫)を十分に味わわせることで、新たなジャンル

への読書活動へ広げていくきっかけとしていきたい。

(2) 単元構成について

本単元で付けたい力は「目的に応じていろいろな本を選んで読む力」である。

第1次では、世界の民話を読み聞かせ、世界の民話に興味をもたせる。そして、民話屏風に入れる要件について確認して学習の計画を立てる。また、並行読書の方法について指導をする。

第2次では、民話屏風に入れる要件について学習材「木かげにごろり」で読み、民話のおもしろさを味わわせていく。

第3次では、第2次で学習してきたことを活用し、並行読書してきた世界の民話で民話屏風を作る。その後交流し、興味のある民話を選んで読む時間を確保する。

単元全体を通して、世界の様々な民話をできるだけ多く並行読書させていく。

本単元で使用する学習材は「木かげにごろり」(東京書籍3下)である。この物語は、時間を追って話が展開していく構成になっていて、木かげの伸びる場所が大きく変化したり、百姓と地主の立場が大きく変わったりすることが分かりやすく描かれている作品である。また、繰り返しの表現が出てきていて民話のおもしろさを味わうことのできる作品である。これらのことから、今回の学習に適した学習材であると考えられる。

(3) 指導について

第1次では、世界の民話を読み聞かせ、世界には様々な民話があることや民話は「由来」「とんち」「逆転」などの様々なジャンルに分けられることを知らせていく。そして、民話に出てくる共通点(民話のおもしろさ)を考えさせていく。2時間目には、既習の「かさこじぞう」で教師が作成した「民話屏風」を提示し、民話のおもしろさを民話屏風で学級の友だちに紹介するというめあてを持たせ、学習意欲を高める。民話屏風には、話の大体が分かる「あらすじ」、人物像・話の展開・表現のおもしろいところが分かる「おもしろさ」、民話のおもしろさを伝えるための「おもしろい理由」を入れることを確認し、学習計画を立てる。単元を通してたくさんの民話を読めるように世界の民話コーナーを設ける。そして、興味をもって民話を読んでいけるように並行読書のブックリストや読書カードを活用する。また、世界地図を掲示することで、世界の様々な民話に興味をもって読めるようにしていく。

第2次では、学習材「木かげにごろり」を読み、おもしろさを味わう時間と位置付ける。第2次の始めに、物語の大体をとらえさせる。誰が何をしている場面かを短い言葉でまとめ、はじめに・次に・それから・さいごにを意識させて、簡単にあらすじをまとめさせる。次に、人物像をとらえさせていく。登場人物はどんな性格をしているかをとらえさせるために、登場人物の行動や会話に着目させて人物像を考えさせる。本学級の児童は語彙が乏しいため、「言葉の玉手箱」を活用させ、人柄を表す言葉を選べるようにする。それから、話の展開のおもしろさを味わわせるために、大きく変化したものを考えさせていく。話の始めと終わりに注目させ、どんなところが変化したのかを考えるようにさせる。また、何によって変化したのかということにもふれていく。最後に、表現のおもしろさを見つけるために、繰り返しやオノマトペや言い方に注目させるようにする。おもしろさを味わわせるために、音読を取り入れていく。その際、様子を想像して音読させ、リズムのよさや調子のよさを実感させていくようにしたい。第2次の最後には、今まで書き溜めてきたカードを要件に沿って見直し、民話のおもしろさが伝わるような構成の順序を考えさせて、友だち同士でおもしろさの交流をさせる。第2次の単位時間の最後には、並行読書をしてきた本のおもしろさを要件に沿って紹介する時間をつくり、第3次を常に意識させていく。

第3次は、並行読書をしてきた中でおもしろさを紹介したい本を選び、民話屏風におもしろさをま

とめていく。その際、要件に沿って読書カードに書いたことをもとに作成するようにし、構成も工夫させる。そして、学級の友だちに紹介し、カードから興味をもった民話を読み進めていくような時間を確保し、民話の読み広げにつなげていきたい。

4 単元の指導目標

- 世界の民話に興味をもち、おもしろさに気づきながら読もうとする。 (関心・意欲・態度)
- ◎面白さを見つけながら、世界の民話を選んで読むことができる。 (読むこと)
- 民話のおもしろさを紹介するために、叙述を基に想像して読むことができる。 (読むこと)
- 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○世界の民話を読むことに興味をもち、おもしろさに気づきながら読もうとしている。	◎自分が読んで紹介したいと思う民話について、選んだ理由を明らかにしながら読んでいる。 (カ) ○自分が選んだ本のおもしろさを説明するために、場面の移り変わりや登場人物の性格、情景などをとらえて読んでいる。 (ウ)	○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づき、おもしろさをまとめようとしている。(イ (ア))

6 本単元の読みの視点

- (1) 時・場所・人物・場面の様子をとらえ、話の内容をつかむこと。
- (2) 登場人物の行動や会話・関係性に注目して読み、民話に出てくる人物像をとらえること。
- (3) 境遇が大きく変わったところをとらえ、民話の展開のおもしろさをつかむこと。
- (4) 繰り返しやオノマトペ・言い方に注目して読み、民話独特の表現を見つけること。

7 単元の指導計画（全11時間扱い）

【本単元につながる学び】

目 標 おもしろさを見つけながら、いろいろな昔話を読む。

指導事項 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。

言語活動 読書カードでしようかいしよう

学 習 材 「かさこじぞう」東京書籍 2下

次	時	主な学習活動	並行 読書	指導上の留意点（・）と評価（◇）
1	1	○世界の民話の読み聞かせを聞き、感想を交流する。		<ul style="list-style-type: none"> 世界の民話の読み聞かせをし、いろいろな国の民話があることに気づくようにし、世界の民話に興味をもつことができるようにする。 民話の共通点をみつけ、民話には、繰り返しがあつたり、話が大きく変わつたりする特徴があることに気づくことができるようにする。 ◇世界の民話に興味をもっている。（観察・発言）
	2	○学習計画を立てる。		<ul style="list-style-type: none"> 民話屏風には、「あらすじ」「おもしろいところ」「おもしろい理由」を入れることを確認する。 民話屏風の要件をもとに学習の計画を立てられるようにする。 ◇民話屏風の書き方が分かり、学習の見通しをもっている。（発言） 視点（1）（2）（3）（4）
	3	○並行読書の仕方を知る。		<ul style="list-style-type: none"> 並行読書で世界の民話を読んでいくことを伝える。 ブックリストや読書カードの使い方について確認する。 ◇世界の民話を読もうとしている。（観察・読書カード）
2	4	○物語の大体をとらえ、あらすじをまとめる。		<ul style="list-style-type: none"> 時や場所・出来事に着目させるようにし、どんな場面かを簡単にまとめることができるようにする。 はじめに・次に・それから・さいごにを意識させてあらすじを簡単にまとめることができるようにする。 並行読書の本でもあらすじの紹介にふれるようにする。 ◇物語の大体をとらえ、要約している。（屏風） 視点（1）
	5	○人物像をとらえる。		<ul style="list-style-type: none"> 人物の行動や会話などから人物像を考えたり、関係性を考えたりできるようにする。 並行読書の本でも人物の紹介にふれるようにする。 ◇行動や会話などから登場人物の性格をまとめている。（屏風） 視点（2）

	6	○話の展開のおもしろさを味わう。		<ul style="list-style-type: none"> ・最初と最後を比べ、大きく変化したものを考えたり、何が原因で大きく変化したのかも考えたりできるようにする。 ・並行読書の本でも、展開のおもしろさの紹介にふれるようにする。 <p>◇大きく変化したところをとらえ、理由を挙げておもしろさをまとめている。(屏風) 視点(3)</p>
	7 本時	○民話独特の表現を見つける。		<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しの表現や、オノマトペ、言い方などに着目できるようにし、音読をしながら民話独特の表現に気づくようにする。 ・並行読書の本でも、民話独特の表現の紹介にふれるようにする。 <p>◇民話独特の表現に気づき、理由を挙げておもしろさをまとめている。(屏風) 視点(4)</p>
	8	○「木かげにごろり」で民話屏風を作って交流する。		<ul style="list-style-type: none"> ・理由の明確さや引用の仕方が適切かについての視点を与えて交流できるようにする。 <p>◇おもしろさが伝わるように民話屏風にまとめている。(屏風) 視点(1)(2)(3)(4)</p>
3	9	○おすすめの本で民話屏風を作る。		<ul style="list-style-type: none"> ・民話のおもしろさを伝える民話屏風を作ることを確認し、構成を考えることができるようにする。 ・要件に沿って作成することを確認する。 <p>◇選んだ理由を明確にして、おもしろさをまとめている。(屏風) 視点(1)(2)(3)(4)</p>
	10 11	○友だちと交流して、興味のある民話を読み、学習のまとめをする。		<ul style="list-style-type: none"> ・紹介された本でおもしろそうな民話を読む時間を確保する。 ・学習で身についたことを振り返らせ、今後どんな場面で使えるかを考えることができるようにする。 <p>◇カードを見て、世界の民話を読もうとしている。(観察・学習シート) 視点(1)(2)(3)(4)</p>

【本単元がつながる学び】

目 標 家族やふるさを思う心を描いた、いろいろな本を読む。

指導事項 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。

言語活動 ポスターでしようかいしよう

学 習 材 「世界で一番美しいぼくの村」東京書籍 4下

8 本時の指導

(1) 目標

民話独特の表現を見つけて、楽しみながら民話を読むことができる。

(2) 指導過程

時間	主な学習活動	主な発問 (○) と指示 (△)	指導上の留意点 (・) と評価 (◇)
つかむ 5分	1 前時までの学習を想起し、本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">民話のおもしろい表現を見つけよう。</div>		<ul style="list-style-type: none"> ・学習計画に沿って本時の課題と本時のゴールを確認する。 ・本時の読みの視点を確認する。 (繰り返し・オノマトペ・言い方)
ふかめる 25分	2 民話のおもしろい表現を見つける。 ・一人学びをする。 ・ペアで交流する。 ・全体で交流する。	<p>○この民話の中でおもしろい表現はどれですか。</p> <p>△おもしろいと思う表現にサイドラインを引きましょう。</p> <p>△友だちの考えを聞いてなるほどと思った所にはサイドラインをつけたしましょう。</p> <p>○どのように音読すればよいですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人学びの前に、例を挙げながら線の引き方や理由の書き方を教える。 ・サイドラインと理由を書かせるようにする。 ・友だちの考えを聞いて、新たにおもしろいと感じたところにはサイドラインを引くことを指示する。 ・とくにおもしろい表現を発表させ、どのように音読をしていけばよいか叙述から考えさせるようにする。
まとめる ・ひろげる 15分	3 おもしろい表現をまとめる。 ・振り返り 4 並行読書の本でもおもしろい表現を見つける。 5 次時の学習内容を確認する。	<p>△おもしろい表現を民話屏風にまとめましょう。</p> <p>△並行読書の本でもおもしろい表現を見つけた人は発表しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読みの視点にふれ、民話屏風におもしろい表現とおもしろい理由を書かせる。 <p><評価規準></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇ 民話独特の表現に気づき、理由を挙げておもしろさをまとめている。</p> <p>支 一緒に音読をし、読んでどんな感じがしたか考えるようにさせる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・並行読書の本でもおもしろい表現を見つけている児童を紹介する。 ・次時は、民話屏風を完成させ、友だちと交流することを伝える。

(3) 板書計画

<p>民話のおもしろさを 民話びょうぶでしようかいしよう</p>	<p>①か 民話のおもしろい表げんを見つけよう。</p>	<p>くりかえし 様子を表す言葉 昔の言い方 など</p>	<p>1 一人できがす ・サイドライン ・理由</p>	<p>2 ペアで交流</p>	<p>3 全体で交流 (*全文掲示に書き込みをする) ・音読</p>
--------------------------------------	----------------------------------	---------------------------------------	-------------------------------------	----------------	--